

# 令和7年度 愛知教育大学入学試験問題

## 標準的解答例または出題の意図及び評価の観点

### 【前期日程】

科目名：総合問題（心理コース）

#### 出題の意図

教育には「学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性など」「実際の社会や生活で生きて働く知識及び技能」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力」を育むことが求められる。当コースは心理臨床の専門家育成を目指す教育支援専門職養成課程であり、特に「思考力」「判断力」とともに、目の前の支援が必要な人への共感性及び「表現力」を必要とするため、問1では問題に対する「判断力」を、問2では共感性及び「表現力」を、問3では社会の問題としてとらえ直す「人間性等」について問う。

#### 問1

##### 評価の観点

1クラスに2～3人がいることになる実態があること、普段の会話や理解力には問題がないだけに、「勉強のやる気がない子」「読書が嫌いな子」と誤解されること、頑張っても、脳の音韻処理を司る機能に障害があることが原因でできないことが知られていないこと、本人も保護者も教員も気がつかず、不適切な指導や励ましに子どもが苦しんでいることなどを、本文から読み取り、述べられていること。

#### 問2

##### 評価の観点

いくら努力しても、普通の本や教科書では文字がうまく読めず読むのを諦める挫折体験のつらさ、周りの支援者が機材等工夫してくれても解決しない悔しい思い、読めないことに自信をなくす自己肯定感の低下、工夫をしてもらっても読めないという自分では解決できないことへの無力感など、学習上の困難とそれに対する辛さの推察や苦しさへの共感的な理解が述べられていること。

#### 問3

##### 評価の観点

UD デジタル教科書体を使用する環境調整だけで救われる、ロービジョンやディスレクシアの子どもたちがいること、通常学級の子どもたちにとっても、読みやすく、全問到達率が上がること等多くの子どもにも効果があること、そのほかピクトグラムのように、身近なユニバーサルデザインに触れていること、その目的が障害のある人たちだけではなく、いろいろな状態の人にとっても優しい、インクルーシブな社会のためのデザインであることなどが、自分の言葉で述べられていること。